総務分科会会議録（要点筆記）

令和８年９月２日（水）
午前１０時０９分　開議

○委員長（田中嵩久）
　ただいまから総務分科会を開きます。議案第５２号中当分科会が所管する事項を議題とします。
　当局の補足説明を求めます。
○企画課長（内田敦士）
　補足説明はありません。
○委員長（田中嵩久）
　ただ今から質疑を行います。ご質疑ありませんか。
○副委員長（沢田清）
　過年度歳入還付金について、昨年度は３億円程度の補正予算の計上がありましたが、今年度は２億円程度となっています。金額の妥当性と予算を計上する際の考え方を教えてください。
○財政課長（冨塚直樹）
　今回の補正予算で計上している過年度歳入還付金は、国や県から交付された補助金等を返還するものです。補助金等は各課が年度当初に必要と見込まれる金額の交付申請を行います。年度終了後に事業費が確定したため、精算により国や県への返還額が決まったものです。昨年度については、諸費として３億円程度計上し、過年度歳入還付金だけでなく、法人市民税返還のための過誤納市税還付金及び加算金や、定額減税に係る調整給付金事業に係る補正予算の計上があったため、金額が大きくなりました。
○有留麻由委員
　地方創生推進交付金返還金の額が昨年度と比較し、増額した理由は何ですか。
○企画課長（内田敦士）
　半田市では令和６年度と７年度に事業を実施しましたが、この２年間の事務費を重複して国に請求していたものがあったため、返還金が多くなりました。
○坂井美穂委員
　今回の補正予算は、繰越金を財源に予算計上していますが、今後の繰越金の見込みはどのようになっていますか。
○財政課長（冨塚直樹）
　令和７年度決算における繰越金は、１８億５，３１０万円を計上しております。
　令和８年度の補正予算は、この繰越金を財源に補正予算を計上することになります。当初予算では、既に３億５千万円を見込んでおり、６月補正では２，２４３万円、今回の９月補正では１億８，６６０万円を計上し、合計で５億５，９０４万円を既に計上しております。
　今後の補正については、残りの約１３億円を財源に補正予算を計上していきたいと考えております。
○坂井美穂委員
　今後、経済変動等があった場合の補正予算の計上は、繰越金や基金の活用など、どのようになっていきますか。
○財政課長（冨塚直樹）
　国全体の経済変動については、まずは国が対応することになりますので、地方創生臨時交付金などの国の補正予算を見ながら、市は補正予算を計上することになります。

また、例えば半田市特有の経済事業等がある場合には、繰越金に加え、財政調整基金を活用します。財政調整基金は、令和７年度末で約７０億円あり、その内２０億円は病院の解体で使用するため、残りは５０億円となります。災害や経済変動等があった場合に活用する基金であり、特殊事情があった場合に活用する予定です。

○委員長（田中嵩久）

ほかにご質疑ありませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですので、これで質疑を終わります。

以上で当分科会に送付されました案件は、審査を終了しました。

これで総務分科会を終わります。

午前１０時１８分　散会